

8.13 人と自然との触れ合い の活動の場

8.13 人と自然との触れ合いの活動の場

8.13.1 現況

(1) 調査内容

人と自然との触れ合いの活動の場の調査概要を表 8.13.1-1 に示す。また、既存資料調査は「4.1 自然的状況 4.1.7 人と自然との触れ合いの活動の場の状況」に示したとおりである。

表 8.13.1-1 人と自然との触れ合いの活動の場の調査概要

環境要素	項目	調査方法	調査地域・調査地点	調査頻度・時期等
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場の種類、位置、規模、利用状況	現地踏査 資料収集	対象事業実施区域及びその周辺	—
		主要な人と自然との触れ合いの活動の場の管理者及び利用者への聞き取り調査	八手俣川、ヒストリーパーク塚原	3回/年 (春、夏、秋季の各1回)

1) 調査項目

人と自然との触れ合いの活動の場の現地調査項目は表 8.13.1-2 に示すとおりである。

表 8.13.1-2 人と自然との触れ合いの活動の場の現地調査項目

環境要素	調査項目
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場の種類、位置、規模、利用状況

2) 調査範囲及び調査地点

人と自然との触れ合いの活動の場の調査範囲及び調査地点は表 8.13.1-3 及び図 8.13.1-1 に示すとおりである。

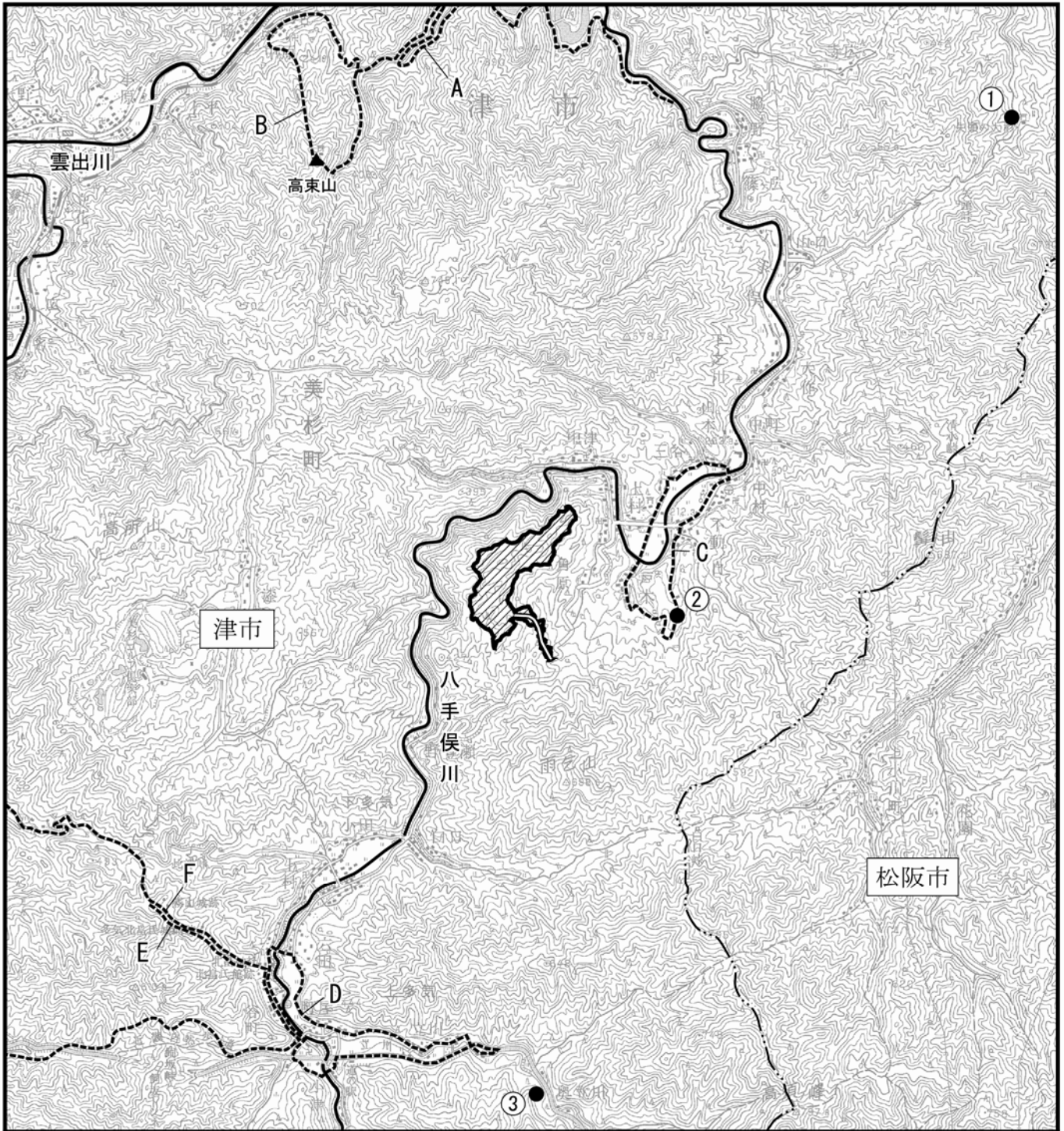
表 8.13.1-3 人と自然との触れ合いの活動の場の名称・概要

番号	種類	名称	概要
A	森林セラピーロード	君ヶ野ダム湖畔コース	ダム湖畔の広葉樹林に囲まれたなだらかな折り返しコース (約 10.7km)
B		高束山コース	君ヶ野ダム湖畔から高束山山頂を目指す遊歩道コース (約 8.6km)
C		塚原ヒストリーコース	仲山神社やヒストリーパーク塚原など下之川集落を歩く周回コース (約 4.4km)
D		北畠歴史探索コース	北畠神社や美杉ふるさと資料館など上多気集落を歩くなだらかなコース (約 10.0km)
E		霧山コース	美杉ふるさと資料館から霧山城址までの歴史遺産探訪コース (約 3.4km)
F		伊勢本街道コース	旧伊勢本街道の宿場町 (のれん街) や飼坂峠、霧山城址を歩く健脚コース (約 11.6km)
1	キャンプ場	矢頭中宮キャンプ場	矢頭の山中にあり、天然記念物「矢頭の大杉」を中心としたエリアに木造の施設が点在する。美しい清流が流れ、恵まれた環境の中でキャンプを楽しむことができる。
2		ヒストリーパーク塚原	全 50 サイトのキャンプサイトの他、バーベキューコーナーや遊歩道が整備されている。また、大自然の中で川のせせらぎが聞こえ、6 月頃にはホタルが飛びかう。
3		清流の里ぬくみ	キャンプサイト、ログハウス・コテージ、バーベキューハウス、お風呂棟、炊事棟、温水シャワー、水洗トイレ、洗濯機が整備されており、川遊び、アマゴつかみなど自然を体感できる。
—	つり場	雲出川	上流～中流にかけて、アユ・アマゴつりができる。対象周辺は、雲出川の上流にあたる。
—		八手俣川	対象事業実施区域直下にある下之川集落の中心を流れる河川であり、君ヶ野ダムを経て、雲出川に合流する。アユ・アマゴつりができる。



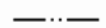



出典：「津市資料」

「三重の旅おでかけ情報データブック2009保存版」(2009年 社団法人 三重観光連盟)

「美杉観光MAP」(津市美杉町)

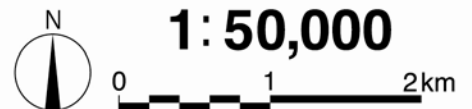


凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 進入路
-  : 市 界
-  : キャンプ場 (①~③)
-  : 森林セラピーロード (A~F)
-  : つり (雲出川、八手俣川)

出典：「津市資料」
「三重のおでかけ情報データマップ 2009 保存版」
(平成 21 年、社団法人三重観光連盟)
「美杉観光 MAP」(津市美杉町)

図 8.13.1-1 人と自然との触れ合いの活動の場の調査範囲及び調査地点



3) 調査方法

対象事業実施区域周辺の主要な人と自然との触れ合いの活動の場である八手俣川とヒストリーパーク塚原において、利用状況の調査を行った。また、管理者への聞き取り調査と利用者へのアンケート調査を行った。

アンケート調査の内容は表 8. 13. 1-4 に示すとおりである。

表 8. 13. 1-4 アンケート調査の内容

地点名	アンケート調査の内容
八手俣川	利用状況：利用頻度、利用目的、利用時期
ヒストリーパーク塚原	利用環境：来訪者の住居地域、来訪手段、来訪経路

4) 調査時期

人と自然との触れ合いの活動の場の調査時期は表 8. 13. 1-5 に示すとおりである。なお、利用者へのアンケート調査は、利用者数がピーク時となる夏季に行った。

表 8. 13. 1-5 人と自然との触れ合いの活動の場の調査時期

時期	調査時期	備考
春季	休日：平成 23 年 5 月 15 日 平日：平成 23 年 5 月 16 日	春季
夏季	休日：平成 23 年 8 月 14 日 平日：平成 23 年 8 月 15 日	利用者ピーク時
秋季	休日：平成 23 年 9 月 19 日 平日：平成 23 年 10 月 7 日	秋季連休期間（シルバーウィーク）

(2) 調査結果

1) 利用状況

利用状況の調査結果は表 8.13.1-6 に示すとおりである。

表 8.13.1-6 利用状況の調査結果

時期		八手俣川	ヒストリーパーク塚原
春季	休日	利用者は確認されなかった。日曜日であったが、釣り人は確認されなかった。	利用者はキャンプ 2 組、子ども会 1 組 27 名であった。利用状況は散歩、キャンプ、魚つかみ取り、有料遊戯施設利用、サッカーであった。
	平日	利用者は確認されなかった。釣り人は、確認されなかった。	利用者はオートキャンプ 2 組であった。
夏季	休日	利用者は 24 人確認された。アユ釣りの利用者は 4 人であった。その他、トライアルバイクの利用者が 1 人、魚釣りや水遊び・素もぐりが 19 人であった。	利用者は 250 人以上で、オートキャンプを主に利用し、施設内を散策、バーベキュー、魚つかみ取り、水遊び等、さまざまな利用を行っていた。
	平日	利用者は 24 人確認された。アユ釣りの利用者は、3 人であった。その他、魚釣りや水遊びが 21 人であった。	利用者は 150 人以上で、オートキャンプを主に当地を利用し、施設内を散策、バーベキュー、魚つかみ取り、水遊び等、さまざまな利用を行っていた。
秋季	休日	利用者は確認されなかった。アユ釣り等の釣り人は、確認されなかった。	利用者は 50 人以上で、散歩、オートキャンプ、遊具施設の利用であった。
	平日	利用者はトライアルバイク 1 人の利用者が確認されたが、その他に利用者はなく、釣り、水遊び等も確認されなかった。	利用者は確認されなかった。



八手俣川の利用状況
(夏季：ピーク時)



ヒストリーパーク塚原の利用状況
(夏季：ピーク時)

2) 聞き取り調査

八手俣川の利用状況は、雲出川漁業協同組合に聞き取り調査を行った。また、ヒストリーパーク塚原の利用状況は、ヒストリーパーク塚原の管理事務所に聞き取り調査を行った。

管理者への聞き取り調査結果は表 8.13.1-7 に示すとおりである。

表 8.13.1-7 管理者への聞き取り調査結果

地点	利用状況
八手俣川	<p><利用者数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元漁協組合員約 250 人、組合員以外で 60 人以上が、年間の釣り券を購入している。 <p><利用者の傾向></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者は釣り客で地元利用者が多いが、地元外でも利用者はいる。 <p><利用の多い時期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイシーズンは、夏、秋であり、例年では7月上旬の上りアユに始まり、秋は落ちアユや、網も入れており、夏～秋通して盛況である。 <p><利用形態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には釣りである。夏は河岸での家族ずれのレジャー利用もある。 ・アユ、アマゴについて5月中旬に下多気、下之川で放流を行なっている。 ・放流量は、アユが 400kg、アマゴが 270kg 程度である。
ヒストリーパーク塚原	<p><利用者数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は、年間約 5,700 人である。 <p><利用者の傾向></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者は、県外の関西方面が最も多い。その他に愛知県名古屋市、三重県津市であり、地元の人々（美杉町住民）は、あまり利用していない。 ・利用者は、ほぼ、小学生までの子供とその保護者である。 <p><ハイシーズン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイシーズンは、5月（ゴールデンウィーク）、7、8月（夏休み）、9月（シルバーウィーク）であり、利用者数は多い。 ・週単位の動向は、土曜日に利用者が多く、週に 200 人程度が利用する。平日はほとんど利用がない。 <p><利用形態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはオートキャンプ場である。利用者は本施設を拠点とし、周辺に出かけている。

3) アンケート調査

利用者へのアンケート調査は、利用者数がピーク時となる夏季に実施し、八手俣川は2日間で12組、ヒストリーパーク塚原は2日間で42組のアンケート調査を行った。

① 利用状況

八手俣川及びヒストリーパーク塚原における利用状況のアンケート調査結果は図8.13.1-2に示すとおりである。

ア) 八手俣川

来訪者の利用頻度は、「3回以上」の利用が100%であった。

来訪者の利用目的は、「水遊び」が44%と最も多く、次いで「釣り」が31%を占めていた。

来訪者の利用時期は、「夏」が53%と最も多く、次いで「春」と「冬」が17%を占めていた。

八手俣川の長所は、「自然環境」が28%と最も多く、次いで「静かな所」、「水がきれい」、「空気がきれい」が24%を占めていた。

イ) ヒストリーパーク塚原

来訪者の利用頻度は、「初めて」が53%と最も多く、次いで「3回以上」が26%を占めていた。

来訪者の利用目的は、「キャンプ」が49%と最も多く、次いで「野外バーベキュー」が23%を占めていた。

来訪者の利用時期は、「夏」が73%と最も多く、次いで「秋」が14%を占めていた。

ヒストリーパーク塚原の長所は、「自然環境」が26%と最も多く、次いで「施設が充実している」が20%、「水がきれい」が18%、「静かな所」、「空気がきれい」が14%を占めていた。

② 利用環境

八手俣川及びヒストリーパーク塚原における利用環境のアンケート調査結果は図8.13.1-3に示すとおりである。

ア) 八手俣川

来訪者の住居地域は、「県外」が50%、「市内」が33%、「県内」が17%であった。

来訪手段は、「乗用車」が92%、「徒歩」が8%であった。

来訪経路は、「北側から」が80%、「南側から」が20%であった。

イ) ヒストリーパーク塚原

来訪者の住居地域は、「県外」が55%、「県内」が31%、「市内」が14%であった。

来訪手段は、「乗用車」が100%であった。

来訪経路は、「北側から」が59%、「南側から」が41%であった。

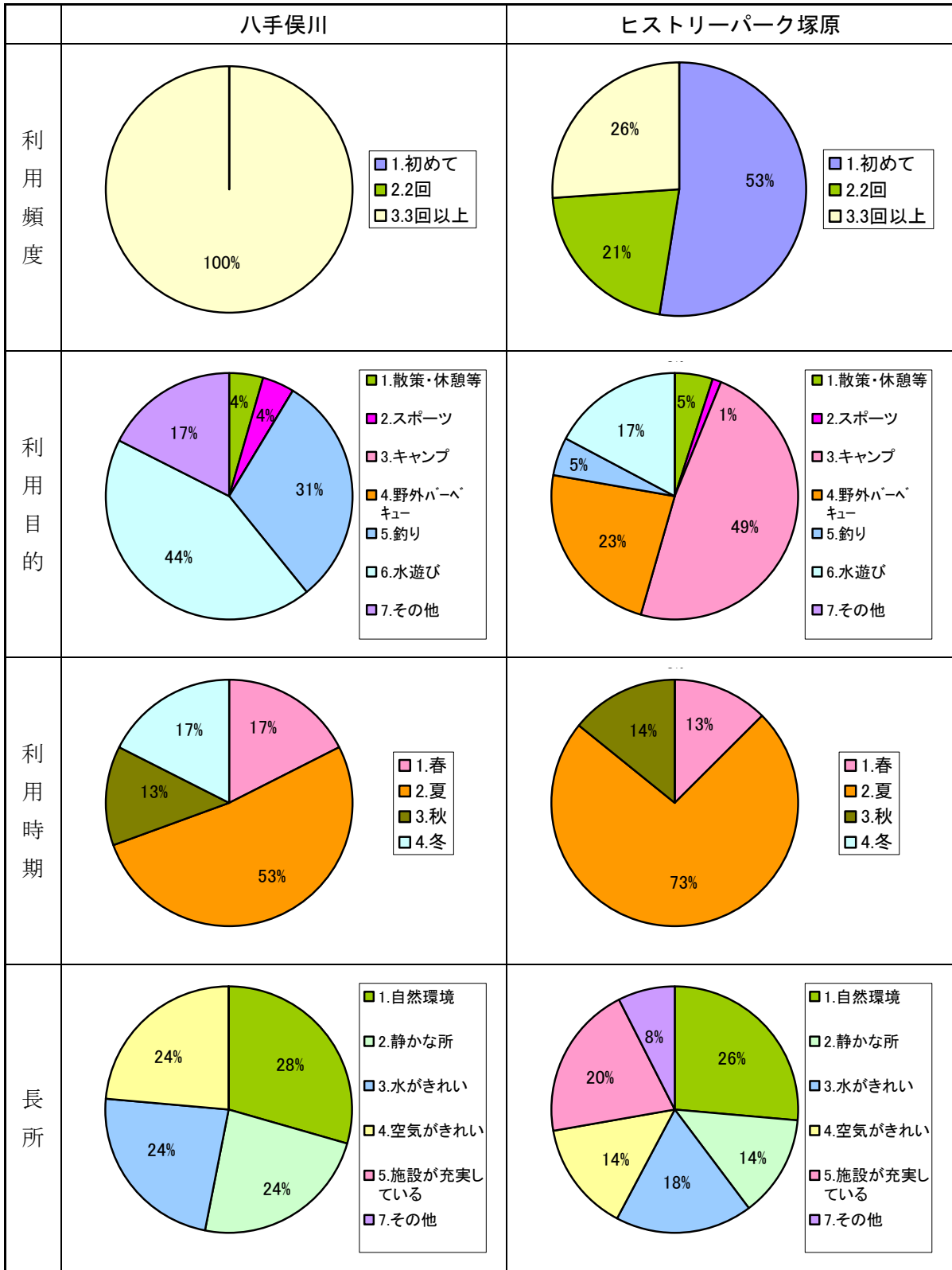


図 8.13.1-2 利用状況のアンケート調査結果

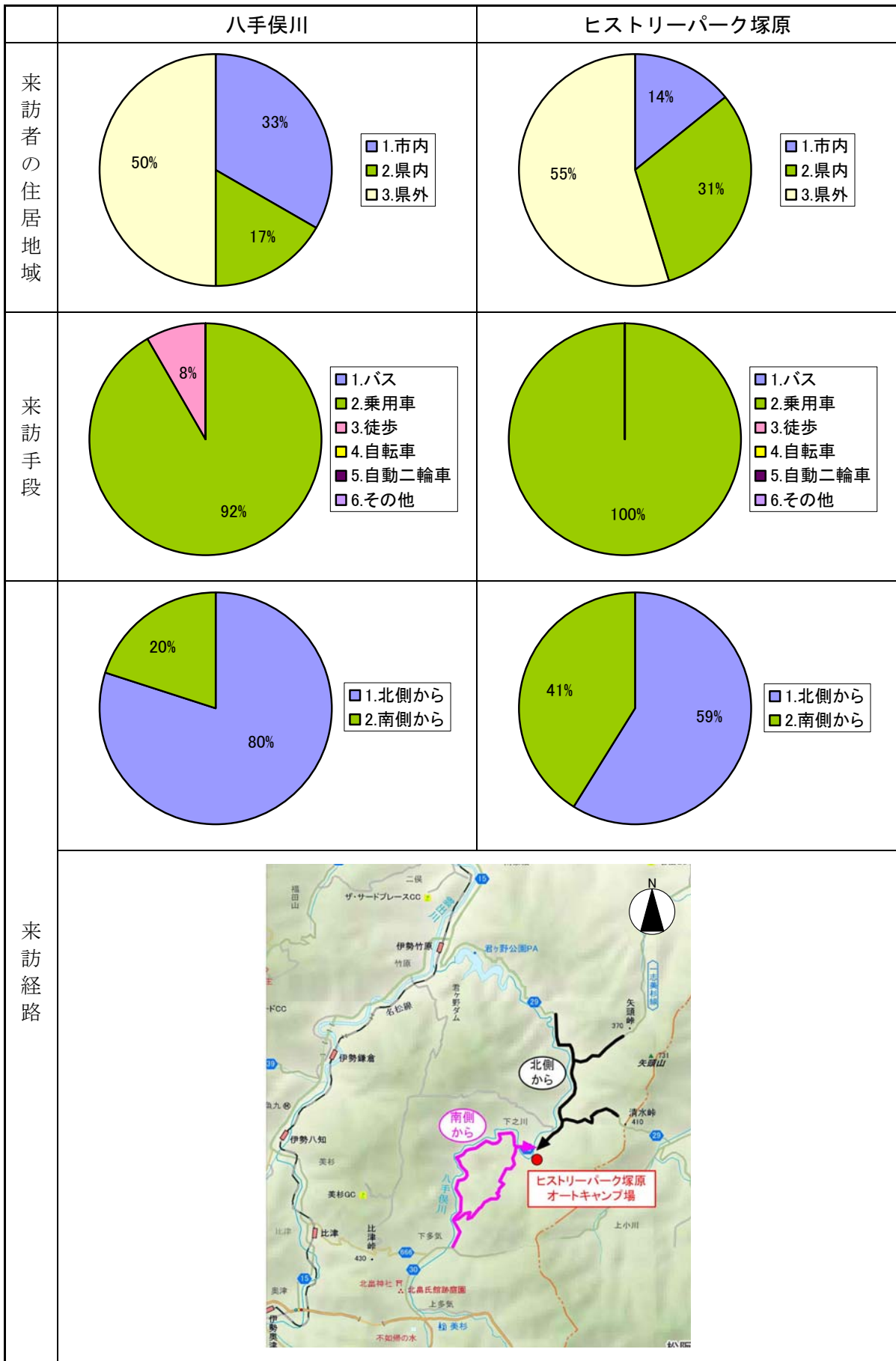


図 8.13.1-3 利用環境のアンケート調査結果

8.13.2 予測・環境保全措置及び評価

人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響の予測概要は表 8.13.2-1 に示すとおりである。

予測は、事業特性及び地域特性において人と自然との触れ合いの活動の場に係る特別な条件等がないことから、技術指針等において示されているように、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況への影響を事例の引用または解析により定性的に予測する手法を用いた。

表 8.13.2-1 人と自然との触れ合いの活動の場の予測概要

影響要因	項目	予測事項	予測方法	予測地域	予測対象時期等
工事の実施	人と自然との触れ合いの活動の場	資材の運搬に伴う工事用車両の走行による人と自然との触れ合いの活動の場の利用改変の程度	調査結果を基に主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況等を与える影響を事例の引用または解析により予測	調査地域と同様の地域	工事用車両による影響が最大となる時期 (工事第1期：工事3年目、工事第2期：工事5年目)
		関係車両の走行による人と自然との触れ合いの活動の場の利用改変の程度			事業活動が定常状態となる時期

(1) 資材の運搬に伴う工事用車両の走行による人と自然との触れ合いの活動の場の利用改変の程度

1) 予測内容

資材の運搬に伴う工事用車両の走行による人と自然との触れ合いの活動の場の利用改変の程度とした。

2) 予測対象時期

工事用車両による影響が最大となる時期（工事第1期：工事3年目、工事第2期：工事5年目）とした。

3) 予測方法

調査結果を基に主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況等に与える影響を解析により予測した。

4) 予測条件

人と自然との触れ合いの活動の場と工事用車両の走行ルートを重ね合わせた図を図8.13.2-1に示す。

5) 予測結果

人と自然との触れ合いの活動の場のうち、工事用車両の走行ルートと交差するものは森林セラピーロード（塚原ヒストリーコース、北畠歴史探索コース、霧山コース、伊勢本街道コース）である（図8.13.2-1参照）。工事用車両の運行による交通量の増加（工事第2期下之川地区①（大気質工事用車両交通量参照））はあるが、最大でも1時間あたり65台であり、森林セラピーロードの利用状況が改変されることはないと予測される。

6) 環境保全措置

以下に示す環境保全措置を実施する。

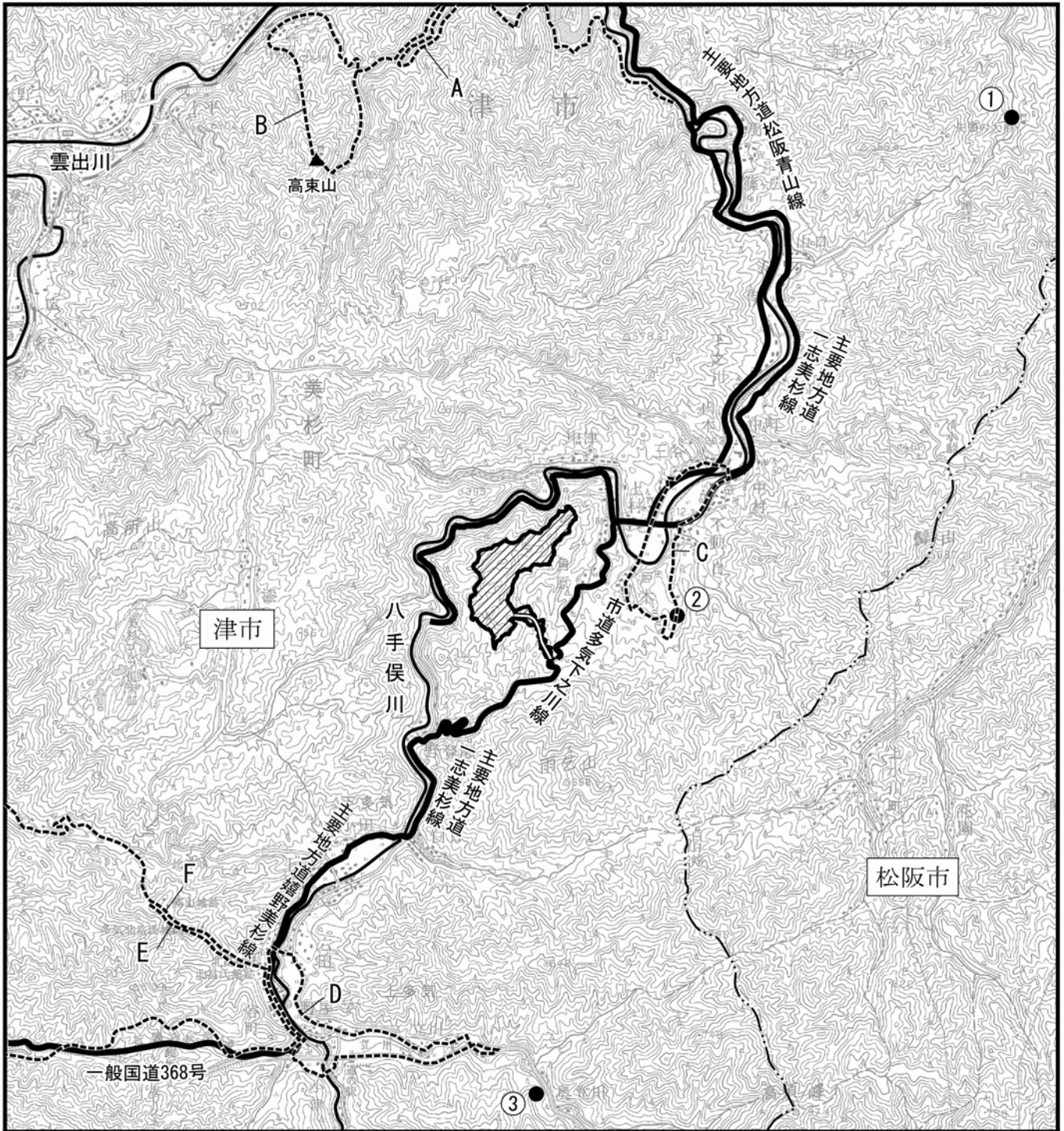
表表 8.13.2-2 環境保全措置の検討項目

影響要因	環境保全措置	環境保全措置の効果	検討結果(不確実性)
工事の実施	工事用車両の運転者には、安全運転講習を行うとともに、森林セラピーロードとの交差箇所・注意点を教育する。	安全運転講習の実施及び注意点を教育することにより安全性が向上する。	影響を低減できるため実施する。

7) 評価結果

環境保全措置として、「安全運転講習の実施、森林セラピーロードとの交差箇所・注意点の教育」を実施する。

よって、環境への影響は事業者の実行可能な範囲で、回避又は低減が図られていると評価する。



凡 例








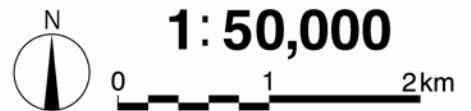
-  : 対象事業実施区域
-  : 進入路
-  : 市 界
-  : キャンプ場 (①~③)
-  : 森林セラピーロード (A~F)
-  : つり (雲出川、八手俣川)
-  : 工事用車両の走行ルート

図 8.13.2-1 人と自然との触れ合いの活動の場
及び工事用車両の走行ルート



(2) 関係車両の走行による人と自然との触れ合いの活動の場の利用改変の程度

1) 予測内容

関係車両の走行による人と自然との触れ合いの活動の場の利用改変の程度とした。

2) 予測対象時期

事業活動が定常状態となる時期とした。

3) 予測方法

調査結果を基に主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況等を与える影響を解析により予測した。

4) 予測条件

人と自然との触れ合いの活動の場と関係車両の走行ルートを重ね合わせた図を図8.13.2-2に示す。

5) 予測結果

人と自然との触れ合いの活動の場のうち、関係車両の走行ルートと交差するものは森林セラピーロード（塚原ヒストリーコース、北畠歴史探索コース、霧山コース、伊勢本街道コース）である（図8.13.2-2参照）。関係車両の運行による交通量の増加（供用時下之川地区①（大気質関係車両交通量参照））はあるが、最大でも1時間あたり7台であり、森林セラピーロードの利用状況が改変されることはないと予測される。

6) 環境保全措置

以下に示す環境保全措置を実施する。

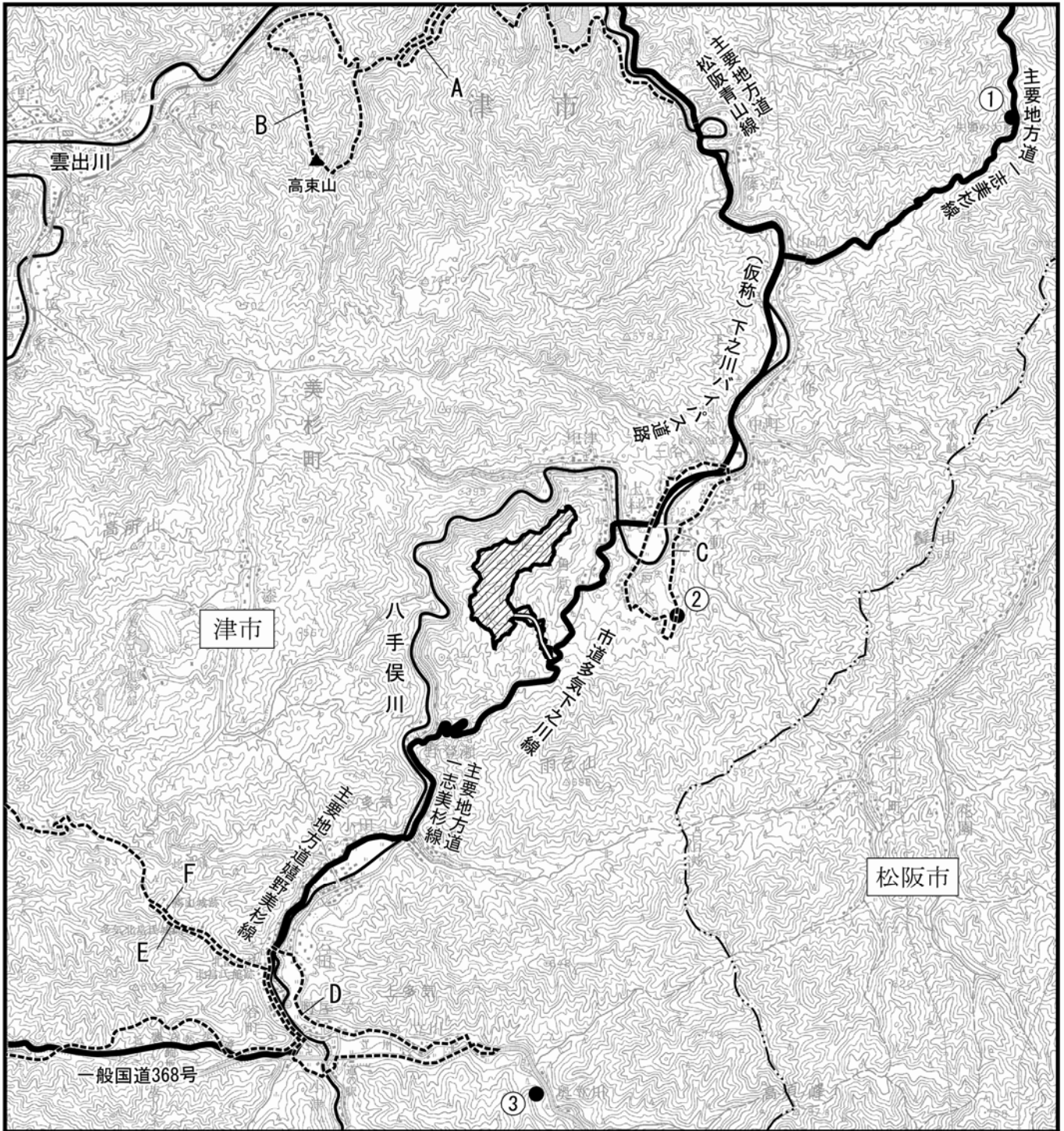
表 8.13.2-3 環境保全措置の検討項目

影響要因	環境保全措置	環境保全措置の効果	検討結果(不確実性)
存在及び供用	関係車両の運転者には、安全運転講習を行うとともに、森林セラピーロードとの交差箇所・注意点を教育する。	安全運転講習の実施及び注意点を教育することにより安全性が向上する。	影響を低減できるため実施する。

7) 評価結果

環境保全措置として、「安全運転講習の実施、森林セラピーロードとの交差箇所・注意点の教育」を実施する。

よって、環境への影響は事業者の実行可能な範囲で、回避又は低減が図られていると評価する。



凡 例








-  : 対象事業実施区域
-  : 進入路
-  : 市 界
-  : キャンプ場 (①~③)
-  : 森林セラピーロード (A~F)
-  : つり (雲出川、八手俣川)
-  : 関係車両の走行ルート

図 8.13.2-2 人と自然との触れ合いの活動の場
及び関係車両の走行ルート

